

週報

1990年7月22日 聖霊降臨節第8主日

巻 11

17号

1990年度教会主題

「新会堂を献げる」

聖句 それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。

ルカによる福音書 6章48節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 新会堂を完成させていく。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

会堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13994

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目-6-3-304

電話 045-833-6616

牧師 秋吉隆雄

一牧師室から一

創世記の講解説教を1年半ほど続け、今日終えた。私には本当に有益な学びであった。聖書は登場人物の思いや表情、又回りの状況には関心を示さず、出来事だけを淡々と書いている。行間から汲み取れども尽きない想像をかきたてられ何とも楽しかった。

創世記は科学的真理や歴史的事実を記した書物ではない。苦悩の中から神を問いつけたイスラエルの民が、神は誰であり、人間は何者であり、歴史は何であるかを血を吐くようにして残した信仰告白書である。その聖書によれば、神は天と地と、そこにあるものを創造し、最後に神の愛の対象として対話する関係を持つ人間を創造した。そして、これら全てを「よし」と是認された。ところが、人間は与えられた自由を用い、神の是認を逆にねじった。この罪が、人間の苦悩の始まりとなったと告げる。アダムとエバの背信、カインの殺人、レメクの傲慢、ノア時代の地の暴虐、バベルの塔の悲劇。

罪が生み出す人間の苦悩と歴史の悲惨を描き出す。聖書の民はこの苦悩と悲惨に苦しみ抜くが、神はこれらを放置されることなく、赦しと祝福をもって救いへと導く生ける神を高らかに賛美する。創世記は「罪」と「裁き(苦悩)」と「赦し」の三つを波のように繰り返しながら、神の絶対的主権を告白する。これはアブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフの四人の族長たちの生涯において更に強調される。彼らは神の言葉を信じて、生きようとするが、挫折し苦しむ。神はその彼らに臨み、新たな救いの道を常に備えてくださる。創世記の終りは「あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにして下さったのです」というヨセフの告白で締め括っている。時代は違っても聖書の人物たちと同じ人生を私たちも歩んでいる。それは、同じ赦しと祝福をいただけるということである。私は学びながら、本当に慰められてきた。